

様式第9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
にかほ市地域	にかほ市	平成22年4月1日～平成29年3月31日	平成22年4月1日～平成29年3月31日

1. 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指標		現状(割合※1) (平成20年度)	目標(割合※1) (平成29年度) A	実績(割合※1) (平成29年度) B	実績/目 標※2
排出量	事業系 総排出量	1,987 t	2,026 t ( 2.0 %)	2,322 t ( 16.9 %)	845.0 %
	1事業所当たりの排出量	1 t	1 t ( 0.0 %)	1 t ( 0.0 %)	100.0 %
	生活系 総排出量	8,451 t	7,274 t ( -13.9 %)	6,791 t ( -19.6 %)	141.0 %
	1人当たりの排出量	240 Kg/人	218 Kg/人 ( -9.2 %)	232 Kg/人 ( -3.3 %)	35.9 %
	合計 事業系生活系総排出量合計	10,438 t	9,300 t ( -10.9 %)	9,113 t ( -12.7 %)	116.5 %
再生利用量	直接資源化量	10 t ( 0.1 %)	0 t ( 0.0 %)	20 t ( 0.2 %)	-119.5 %
	総資源化量	1,641 t ( 15.7 %)	1,548 t ( 16.6 %)	1,041 t ( 11.4 %)	-452.5 %
熱回収量	熱回収量(年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	— MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	1,440 t ( 13.8 %)	1,520 t ( 16.3 %)	1,626 t ( 17.8 %)	158.8 %

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)  
(生活排水処理)

指標		現 状 (平成20年度)	目 標 (平成29年度) A	実 績 (平成29年度) B	実績/目 標※3
総人口		28,695 人	26,965 人	24,983 人	—
公共下水道	污水衛生処理人口	12,253 人	16,487 人	14,618 人	55.9 %
	污水衛生処理率または污水处理人口普及率	42.7 %	61.1 %	58.5 %	85.9 %
集落排水施設等	污水衛生処理人口	7,122 人	7,240 人	6,398 人	-613.6 %
	污水衛生処理率または污水处理人口普及率	24.8 %	26.8 %	25.6 %	40.0 %
合併処理浄化槽等	污水衛生処理人口	2,130 人	833 人	1,899 人	17.8 %
	污水衛生処理率または污水处理人口普及率	7.4 %	3.1 %	7.6 %	-4.7 %
未処理人口	污水衛生未処理人口	7,190 人	2,405 人	2,068 人	107.0 %

※3(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	ごみの有料化の検討	にかほ市	ごみの有料化実施是非を含めた各種検討	H24～H28 (H24～H28)	家庭系ごみの有料化は当面行わない事とした。(平成26年度)直接搬入ごみの料金設定の見直しを平成31年度に行う予定です。
	12	教育、啓発活動の実施		環境教育、施設見学会やその他啓発活動の実施	H24～H28 (H24～H28)	新施設の本稼働に合わせ施設の見学を受入れ、パンフレット、チラシやビデオを活用した環境教育を行い、ごみ処理の現状と課題、市の取組を紹介し、住民・事業者が理解を深めるよう啓発活動を図った。(平成28年度見学者:43件957名、平成29年度見学者:27件625名、合計70件1,582名) 広報や出前講座でごみの分別収集・減量化の推進を図り、市内小中学生を対象に「ごみ減量・リサイクル促進ポスターコンクール」を実施し、文化祭へ作品を展示した。(平成28年度応募件数:小学生63件、中学生26件)
	13	エコバッグ・買い物かごの持参及び過剰包装の抑制		エコバッグ等持参の呼びかけによる過剰包装や袋ごみの発生抑制	H24～H28 (H24～H28)	消費者団体等の協力によりエコバック、買い物かごの持参の呼びかけ、店舗等の自主的取り組みにより、過剰包装、袋ごみの発生抑制が図られている。
	14	住民主体回収の支援・助成		集団回収助成や店頭回収支援の検討	(H24～H28)	少子化の影響による集団回収の減少により助成は検討されていない。
	15	家庭内生ごみ処理の推進		コンポスト容器、生ごみ処理機普及やBDF事業との連携	H22～H28 (H24～H28)	平成22年度から生ごみの減量を図るため、生ごみ処理機設置事業補助金を交付し減量化を図った。(補助実績:電気式処理機10件、コンポスト21件、水切りバケツ1件) BDF精製事業との連携により、廃食油のリサイクルを促進した。(平成19年度から事業実施、平成28年度回収量1,058ℓ、協力町内会等9団体)
	16	汚濁負荷量削減のための普及啓発		広報活動、排出抑制品等の推進	H22～H28 (H22～H28)	公共下水道・集落排水施設等の整備拡大に合わせ広報活動により、排出抑制の製品の普及・啓発、無リン洗剤・石鹼使用などの啓発活動が図られている。

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
処理体制の構築、変更に関するもの	21	粗大ごみ収集に関する検討普及啓発	にかほ市	新たに収集する粗大ごみの排出・収集方法の検討・周知	H24～H28 (H24～H28)	新施設の稼働に伴い受入を開始する粗大ごみの収集については、事務の煩雑化、住民の混乱を防止するため市での収集は行わず、従来の処理方法と同様に持込による施設での受け入れとした。広報等に掲載し、受入の開始、料金、搬入方法等を周知した。また、不燃ごみと併せ最終処分場への直接埋立てを行わず、減容化・資源化を図った。
処理施設の整備に関するもの	1	浄化槽設置整備	にかほ市	合併浄化槽の整備推進	H22～H23 (H22～H23)	公共下水道等が整備されていない地域における浄化槽の整備を推進するためH22:1基、H23:1基 計2基の設置事業を実施した。(処理対象人口:6人)
	2	マテリアルリサイクル推進施設(リサイクルセンター)		不燃・粗大破碎選別設備と資源ごみ再生施設の整備	H25～H28 (H25～H28)	平成25年7月に入札公告を行い、総合評価落札方式により平成26年2月に事業者を特定した。平成26年3月から平成28年7月の工事期間で工事を実施し、平成28年8月より本稼働を開始した。
	3	エネルギー回収推進施設(熱回収施設)		老朽化した現行施設に代わる新施設の整備	H25～H28 (H25～H28)	
施設整備に係る計画支援に関するもの	32	2の計画支援	にかほ市	測量・地質調査、生活環境影響調査、発注仕様書作成	H24～H25 (H24～H25)	平成24年6月から平成25年5月まで生活環境影響調査を実施した。平成25年8月から11月に測量・地質調査を実施した。平成24年10月から平成26年3月に発注仕様書作成及び事業者選定支援業務を実施した。
	33	3の計画支援		測量・地質調査、生活環境影響調査、発注仕様書作成	H24～H25 (H24～H25)	
その他	41	不法投棄対策	にかほ市	分別排出の徹底とパトロールの強化	H24～H28 (H24～H28)	新施設建設に合わせ「家庭ごみの出し方」ポスターを作成し、全戸配布し分別排出の徹底を図った。不法投棄監視員10名により監視パトロールの実施、不法投棄防止看板の設置を実施した。平成27年度に本市独自の啓発看板を作成し、古くなった看板の更新、新規設置を実施した。
	42	災害時の廃棄物処理に関する事項		災害廃棄物の処理等周辺自治体との連携体制の構築	H24～H28 (H24～H28)	秋田県で作成する「秋田県災害廃棄物処理計画」に基づき、県計画との整合性を図りながら仮置き場の配置計画を検討し、平成30年度以降に「にかほ市災害廃棄物処理計画」の作成を実施する。

### 3 目標の達成状況に関する評価

#### 【ごみ処理】

##### ○排出量

平成29年度排出量合計は、平成20年度実績に比べ12.7%の減少、目標の9,300tに対しても実績が9,113tであり目標値に対しても約2%減少しており目標を達成している。事業系排出量、1人当たりの排出量については未達成となっている。

##### ○再生利用量

平成29年度再生利用量合計は、目標の1,548tに対して実績が1,041tであり目標値に対して67.2%となっている。

目標を達成できなかった数値となっているが、要因としては以下のとおりである。

①資源ごみの分別徹底を進めたことにより排出抑制に関する意識も向上により資源ごみ自体の排出量が減少したこと。

②民間事業者(スーパー等)の資源物回収BOXの設置が進み民間のリサイクル量が増加したことで行政回収量が減少したこと。※民間リサイクルの実数を把握するため民間事業者へのアンケート等を実施します。

上記要因によるにかほ市の収集量の予測と実績は

右記のとおりであり、社会情勢の変化や

平成20年度と比べて、市民意識が格段に

向上し、新たに民間リサイクル化が充実し

たことを勧奨すると再生利用化は目標通り

に進んだものと考えられるため、今後も市民・事業者と協調し再生利用の促進に努めたい。

	不燃ごみ	カン	ビン	ペットボトル	古紙	計
予測数量	376t	110t	233t	79t	960t	1758t
実績数量	261t	89t	188t	60t	675t	1273t
リサイクル量	129t	88t	158t	56t	610t	1041t
リサイクル率	49.4%	98.9%	84.0%	93.3%	90.4%	81.8%

##### ○最終処分量

最終処分場の埋立量については、直接搬入の埋立量が805tあり、新施設に搬入され、破碎後資源物を取り除いたものと合計で1,626tとなっている。不燃ごみ、不燃粗大ごみの処理を直接埋立から、破碎後資源物を取り除いてからの埋立て処理にしているため、ごみの減容化ができ最終処分場の延命化が図られているため目標に向け推進が図られていると考える。

#### 【生活排水処理】

生活排水処理については、下水道、集落排水施設を基本とし、計画区域外については合併処理浄化槽への転換をすすめた結果、未処理人口を大幅に減少することができた。公共下水道は、普及率の向上を図るため面整備管渠工事を進め面整備の拡大を図っている。目標の16,487人に対して実績14,618人で、普及率についても目標の61.1%に対して58.5%であり目標値は下回った。集落排水施設は全18処理区が完成しており、目標の7,240人に対して実績6,398人で普及率についても目標26.8%に対して実績25.6%であり目標値は下回った。合併浄化槽設置事業は、平成22、23年度に計画どおり2基の設置を実施しており目標達成の一助となっている。

接続率については、概ね全地区で順調に推移している一方、近年、高齢者世帯(一人暮らし等)が増えてきてるなど一部の未接続世帯が横ばい状態にあります。今後も、接続率(水洗化率)の向上を推進するための広報活動を実施します。

人口の減少が著しく、目標未達成のようになっているが、公共下水道の接続率89.9%、集落排水91.6%と毎年順調に推移しており目標は達成していると考えます。

(都道府県知事の所見)

排出量については、事業系の総排出量が目標値以上に増加しているものの、生活系の総排出量が19.6%減少し、合計で目標を達成しており、排出抑制に関する施策の効果が出ているものと推測される。目標を達成しなかった事業系や1人当たりの排出量の削減のため、今後も、排出抑制に向けた取組を推進されたい。

再生利用量については、総資源化量及び排出量に対する割合ともに減少しており、目標を達成していないが、民間事業者による再生利用量は増加しているものと推察される。引き続き、住民、事業者、行政が連携した、再生利用量の増加につながる取組を推進されたい。

最終処分量については、埋立最終処分量及び排出量に対する割合のいずれも、目標値以上に増加しており、目標を達成していない。排出量削減及び中間処理による減容化の取組に努めていただきたい。

生活排水処理については、公共下水道、集落排水施設等、合併処理浄化槽等の合計の汚水衛生処理率が74.9%から91.7%へと着実に増加していることから、生活環境の改善に十分寄与したと考えられる。今後も引き続き生活排水処理施設整備の推進に取り組んでいただきたい。